

評価について A:良好・満足, B:概ね良好・概ね満足, C:一部不十分・やや不満, D:不十分・不満

重点目標	具体的取組	評価の観点	評価
「学力を伸ばす学校」であるための指導の充実	シラバスを生徒全員に提示し、授業内容・授業進捗等を明確にし、年間を見通した学習をさせる。	【満足度指標】 シラバスが全教員・全生徒の指標となっている	B
	チャイムと同時に授業を開始し、チャイムと同時に授業を終了する。	【努力指標】 チャイムの鳴る3分前に行動を起こす。	B
	進学補習を実施し、大学進学を質量ともに増やす。	【努力指標】 全教科で積極的に実施し、結果を出す。	B
	温習(成績不振者に対する補習)を実施し、基礎学力の定着を図る。	【努力指標】 国語・数学・英語の3教科で積極的に実施し、成果をあげる。	A
	いろいろな資格試験を受験・取得させることで、学力の伸長をはかる。	【成果指標】 資格試験の受験を促し、受験者の数を増加させる	B
	公開授業を実施し、その後の意見交換を通して授業の質を高める。	【成果指標】 全教科で公開授業を実施し、教員の授業への取り組みが向上している。	B
「うつくしく、逞しく」の精神を身につけるための指導の充実	皆勤賞を設け、毎日欠かさず学校へ通学することで、授業の大切さを実感させる。	【成果指標】 皆勤者を3割以上にする。	A
	講演会等を通し、生徒一人ひとりの人格形成と質の高い自己実現を目指す。	【満足度指標】 生徒が感動を覚える講演会を開催する。	B
	制服をきちんと着こなすこと、校歌・応援歌を大きな声で歌うことを通して、愛校心と帰属意識を育てる。	【成果指標】 生徒が愛校心と帰属意識を大きく増加させる。	B
保護者と提携した学校づくり	保護者面談会により、保護者との連携をはかる。	【成果指標】 生徒への指導が一層やり易くなる。	A
	家庭訪問を実施することで、生徒の教育環境を知り、指導に生かす。	【満足度指標】 保護者との信頼関係が醸成される。	B
	PTA総会へ積極的に参加してもらうことにより、保護者との連携を深める。	【満足度指標】 保護者が学校の状況を認識する。	B
	PTA活動に参加しての満足度 PTA2委員会の活動	アンケートや口コミで評価する	B
	PTA活動が生徒の教育的支援になっている 各種行事への参加があり、このことが家庭の中で活用されているか	【満足度指標】 情報発信と回収、PRがなされているか	A
地域に親しまれる学校づくり	地域への広報活動を展開する	【成果指標】 教育活動が地域に理解されるよう努める	A
学校案内	中学生やその保護者に情報を提供し本校の教育を理解してもらう	ポスター、オープンスクール、リーフレット、ホームページ	A
進路意識向上と学力向上のための指導の充実	ガイダンスや講演会等を通して進路意識を啓発することで進路実現への早期取り組みを目指す	目的意識をもち進路実現へ向けて前向きな取り組みをしている	A
	(1)「総合的な学習の時間」に行われるキャリア教育等を通して将来のビジョンを思い描き具体的な目標を見出す。	進路希望調査の内容等を分析	A
	(2)小テスト、課題テスト、定期考査、模試成績、スタディーサポート等を分析し、個々の生徒への具体的な働きかけを行うことにより、目的実現のための意欲的な態度を育成する。	個人面談と進路希望調査	B
	(3)模試やプレテストの積極的受験を通して、上位校を目指す。	模擬テストデータより	B
	1年生/家庭学習の習慣が十分確立されており、課題に積極的に取り組んでいる。自己の夢・希望を知る。	スタディーサポートや進路マップのデータを活用	C
	2年生/目的意識をもち、日々の学習が充実している。希望を叶える為に必要なことを考える。	スタディーサポートや進路マップのデータを活用	C
	3年生/具体的な目標をもち、意欲的に取り組んでいる。模試を受験し、効果的に活用している。	個人面談と進路希望調査	B

評価について A:良好・満足, B:概ね良好・概ね満足, C:一部不十分・やや不満, D:不十分・不満

重点目標	具体的取組	評価の観点	評価
	模試の受験者増加を目指し、学年全体の意識高揚と底上げを図る。	(1)普通コース/必ず複数回受験し、自己採点后、見直しを行う。	C
		(2)模試においてより高い成果を上げさせたい。	B
	大学短大進学希望が学年で6割程度あり、より高い進学実績を目指す。	(1)センター試験志願者増加を図りチャンスを増やす	B
		(2)現役進学率を増やす	B
	就職ガイダンス、面接講習会、公務員模試等を通し、目標実現のための態度を育成する。	就職模試等で十分に高い成果をあげることができる。	A
就職内定率100%の実現を目指す。	選考試験で高い成果を上げることができる。	A	
自主性・自立心を育成し、社会に通用する生徒を創造する。	登校指導、HR、授業、集会等色々な機会を利用して自己の責任や規則遵守の意義を理解させ、自分を律する事の重要性を認識させる為の働きかけを行う。また、定期的な風紀検査と事後指導を実施する。	【成果指標】 ①社会性が培われ、自主性自立心が感じられ、外見からも校則遵守出来ている。	B
		【成果指標】 ②生徒一人ひとりの基本的な生活習慣が出来ている。	A
	登校指導などによる継続的な指導により、遅刻者を減らす。また、怠業による遅刻5回で個別指導を実施する。	【成果指標】 ③HR活動の確立が、生徒一人ひとりの基本的な生活習慣の確立に結びついている。	B
人権教育	ホームルーム、総合的な学習の時間、学校行事、全校集会等で、人権が尊重される学級づくり、学校づくりを進め、豊かな人権感覚を養い、互いに自他の大切さを認め合う態度や行動力を身に付けさせる。	クラス、学年の様子、生徒指導部から見た学校全体の様子	B
心身の健康について考え、主体的に自己管理できる生徒の育成。	健康診断等の前後保健指導を充実し、積極的・主体的に健康課題に取り組めるように指導する。	各種検診での事後措置が十分に行われている。	B
	健康の保持増進のため主体的に自己管理できるように指導する。	個別や全体に対して保健指導が行われている。	B
	性に関する指導を保健講話として全校生徒に向けて実施する。	個別や全体に対して保健指導が行われている。	A
学校という小社会で、自己の在り方を模索する。	日常の生徒会活動を通して、充実した高校生活を送れるように指導する。	【成果指標】 生徒が自分の生徒会活動を良いと実感している。	B
	学校行事を通して、自分の高校生活に誇りを持てるように指導する。	【成果指標】 生徒が学校行事を通して自分の成長を実感している。	A
自分の生活圏の環境整備に努めることで、奉仕の心や公共心を育てる。	教室の美化に努め、私物管理・清掃状況の確認をクラス環境委員会を中心に実施する。	校内清掃が整然となされ、教室の美化が保たれている。	B
	学校周辺の地域での美化活動	運動部や、2年生課題研究ゼミなどが中心となり、学校周辺のゴミ拾いを行う。	A